

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成 2 6 年度）

1. 機関番号 

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

      2. 研究機関名 大妻女子大学

3. 研究種目名 若手研究(B)      4. 補助事業期間 平成 2 6 年度 ~ 平成 2 8 年度

5. 課題番号 

2	6	7	6	0	0	1	0
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題名  Bangladesh南部沿岸地域におけるサイクロン被災後の復興課題に関する研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 6 3 6 9 7 6	クサカベ ナオノリ 日下部 尚徳	文学部	講師

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

本研究の目的は、Bangladeshのサイクロン常襲地域において、住民が被災後に抱える生活再建課題と、課題への対応態様について、定性的及び定量的データを収集し、災害高リスク地域における災害復興課題を住民の視座から明らかにすることにある。2014年度は、8月および2 - 3月にかけて、サイクロンによる被災状況と生活再建課題を明らかにするため、シャトキラ県において現地調査をおこなった。同県は、2009年のサイクロン「アイラ」によって被災しており、一部地域で破堤した防潮堤が修復されていないことから、復興の度合いが低い地域である。また、アイラの被災地域では、被災直後から長期間にわたり高潮の水が引かない状況が続いた。そのため、住民の多くがシェルター、友人宅、堤防の上で避難生活をおくることとなった。高潮による浸水で農地が使えなくなった住民も多く、同地域での生活を諦め、堤防の外に移住した住民も多数存在する。

被調査者の選定にあたっては、すでに被災後に他地域に移り住んでしまった住民も多く、被災地域における被災者リストを作成し無作為調査を実施することが困難であったことから、被災以前から同じ地域に住む住民を現地で探しだし、任意抽出せざるをえなかった。そのため、量的調査に関しては生活再建課題の傾向をさぐるにとどまった。

調査から、NGO や国連機関が実施するCash for WorkやFood for Workのほか、不定期に実施される日雇い労働に参加して生計をたてる住民が多いことが明らかになった。これにより、防潮堤などの復興は進んだが、人びとはいつまでも続くわけではないこれらのプログラムに自らの生計を委ね、今後の生活の糧になる田畑での仕事や、魚漁の仕事に戻らなくなるという問題も顕在化していた。荒れたままで放置された田畑や、放置された漁船の残骸などがアイラの被災地地域においてはいまだにみられた。